

2013(平成 25)年 8 月 26 日(月)

相愛中学校・高等学校

校長 安井 大悟

始業式式辞

暑い夏でしたね。事故なく元気にみなさんと 2 学期が迎えらることに感謝したいと思います。

『音楽を愛することは、

人間を愛し自然を愛することではないでしょうか！』

と東日本大震災の大津波で倒れた木から震災ヴァイオリンを作った中澤宗幸(ヴァイオリン・ドクター)さんが語っておられます。この方の本「いのちのヴァイオリン」をこの夏、図書館で借りて読みました。

ヴァイオリンの名器ストラディヴァリウスの製作者は、ストラディヴァリというイタリア人です。17 世紀に生まれ 93 年の生涯に約 2000 台のヴァイオリンを作ったとされます。この人のことを中澤さんは『木と対話する名

人』と紹介されました。また、200 年以上も前に作られた楽器なのにドクターに修理されながら生きているんです！

さらにヴァイオリン・ドクターは語ります。

『ヴァイオリンはマツとカエデとニカワ(馬や牛のひづめ)で張りあわせて共鳴胴が作られ、これにニス(樹脂)をぬり、羊の腸を乾かしよじった弦を張り、白い馬のシッポの毛で作った弓でこする楽器なのです。すべてが自然の素材からできています。森の木から作られたヴァイオリンは、もといた森の 1000 年の物語をその音色を通して私たちに語りかけているようです・・・』と。だからこの本には“森からの贈りもの”の副題がつけられていました。

その通りですね。自然からの贈りものが音楽を奏でているんです。40 億年以上の地球の歴史が現在の山河をもたらしてくれたことを忘れ、人類がわがもの顔に貴重な自然を浪費しているんです。こんなわがままが許されるでしょうか？この地球上に存在するすべてのいのちに、もっと畏敬の念を持ちたいと率直に読後の感想を持ちました。

ところでみなさん、矢野顕子さんご存知ですか？坂本龍一さんの奥さま。矢野さんは N.Y.郊外にパンプキン・スタジオを構え、一台のピアノに向かって作曲をしておられます。矢野さんが自分のピアノ「スタインウ

エイ」の生まれ故郷をたどって旅する番組(旅のチカラ、NHK BS、3/1放送)の中で、中澤さんと同じ観点から語っておられたことを思い出し、録画を見直しました。

矢野さんは自分のピアノに刻まれているシリアルナンバーとハンブルグの文字をたよりに、ピアノのルーツを求める旅に出ます。

スタインウェイ・ピアノの創業者ヘンリー・スタインウェイ(独名ハインリッヒ・エンゲルハルト・シュタインヴェーク)はドイツ中部のハルツ地方の炭焼き職人の家庭に生まれ育った人でした。幼い頃から森の中を移り住んで、木を見る目を養ったと言われます。彼は15歳のとき落雷で孤児となり、家具職人の見習いをします。こうしてスタインウェイは森の木の性質とその細工の方法を知り尽くします。1836年に当時広まり始めたピアノという楽器を独学で作ります。このピアノの音の良さはすぐ評判になり自宅兼ピアノ工房を持ちました。しかし、当時のヨーロッパは混乱状態にあり、移民としてアメリカに渡ります。

1853年、N.Y.でピアノ工場を創業、これが大成功で1880年祖国ドイツにハンブルク工場を作ったのでした。

矢野さんのピアノは、このハンブルク工場ですべて完成した391,901台目のピアノでした。相愛のスタインウェイのルーツを誰か訪ねませんか？

さて、ピアノについて大事なことがあります。ピアノの音色を左右するのはピアノの中にある共鳴板“響板(サウンド・ボード)”で、弦の振動を受けて音を増幅する最も大事な部分(ヴァイオリンでは共鳴胴)でピアノの魂と呼ばれます。音は木目に沿って伝わります。だから、木目は完璧な直線でなければなりません。また木目が詰まっているというか狭いほど木が硬くなり、音伝達がよくなるとされます。

矢野さんはこうおっしゃいました。『樹齢 100～200 年のトウヒを伐採、2 年間倉庫で寝かせ乾燥。木のゆがみが止まるのを待つ。その前に木材になるまで 100 年も 200 年も必要だったことを考えると、私たちはその先端になったフルーツをちょこっと削りとって食べているにすぎないのね・・・』と。

私たちは目の前にある便利で簡単に手に入る物にあたり前のように接して暮らしています。相愛の生徒のみなさんは、音楽科を持つ大阪で唯一の私学の生徒であることを誇りにしてください。身近にある楽器すなわち“森からの贈りもの”を通してすべてのいのちのつながりに気づく機会をたくさん持っているからです。音楽の秋です。一つひとつの楽器から紡ぎ出される音の豊かさに心を満たす時間を共有するとともに、ヴァイオリン・ドクターや矢野さんのメッセージ“森からの贈りもの”に感

謝し、いのちの不思議を感じてください。そして自然の偉大さに想いをいたす2学期を充実して過ごして欲しいと思います。